

9月16日(土) 事例研究第3室(723)

英語カリキュラム改革後(経済学部)の教育効果

—listening 統一テスト—

Unified Listening Test

青山学院大学 小張敬之

カリキュラム改革 教育効果 listening統一テスト 担当者専攻比較

Advanced listening class

1. はじめに

本大学では、専任の英語担当教員は、各学部にも所属し英語教育を行っている。ここでは、経済学部のカリキュラム改革と、その効果について述べる。

従来の英語カリキュラム：

<必修科目> 1年：英語講読IA 英語講読IB 英作文I

2年：英語講読IIA 英語講読IIB

3年：英語講読III

<選択科目> オーラルイングリッシュI、オーラルイングリッシュII、英作文II

スピーチ・クリニック、時事英語

改革後の英語カリキュラム目標：

オールラウンドな英語の実力を身につけるように指導する。

(1) 英語の4技能(読む・書く・聴く・話す)をバランスよく身につけるように指導する。(特に今回の改革においては、従来のカリキュラムでは不十分であった、聴く能力と話す能力の強化に重点を置いた新カリキュラムを考慮した。)

(2) 経済学部の専門科目を専修するために必要な英語の基礎力を身につけるように指導する。

(3) 英語を通して英語圏の文化と社会状況に親しみ、異文化の論理・思考方法に慣れる。

<必修科目> 1年：リーディング・コンプリヘンションI

ライティング & コミュニケーション

リスニング・コンプリヘンション

2年：リーディング・コンプリヘンションII

リーディング&ディスカッション

3年：英語圏の言葉と文化

<選択科目> 英語資格試験講座A(TOEFL)、英語資格試験講座B(英語検定試験)

ビジネス・コミュニケーション、スピーチ・クリニック、

改革後の特徴：

(1) リスニング・コンプリヘンションクラスで、proficiency testをpre-test, post-testとして採用し、英語の学力の伸びを計ることにした。また、学年末には、英語の検定試験としても取り入れ、ある基準に達しなかった学生に対しては、単位を認定しないことにした。

9月16日(土) 事例研究第3室(723)

- (2) 2年生のReading and Discussion Courseにおいて、英語教育専門の外国人教員を採用した。
- (3) 英語資格試験講座(A:TOEFL講座 B:英語検定試験講座)をもうけた。
- (4) 旧来の英語講読III(必修科目)から、3年生の英語演習科目の講座を、選択必修科目として、登録者数を30名以下にし、多くの科目から興味のある科目を選択できるようにした。

2. リスニング・クラスの特徴と統一試験

目標：可能なかぎりナチュラルスピードに近い、散文や会話体の現代英語を聞いて理解できるように指導する。

内容：初歩的な教材から始めて、段階的に高度な教材を使うようにする。ビデオ教材・カセットテープを使用する。

前期：米語・英語の日常会話を理解する。

後期：ニュース、映画、大学の講義などを理解する。

CELT listening Proficiency Test 60%

試験：4月の最初の授業時と12月最後の授業時に、listeningの検定試験を実施する。
検定試験に合格して、単位が認定される。

注意：12月の最後の授業に英語検定試験を行うので、日々実力を養っておくこと。
英語検定試験に成績不良の者には、1度だけ再試験の機会を与える。

<1年目(1994年度)のカリキュラム>

テキストを統一する。2冊

Access to English:GETTING ON (Oxford English)

FILMS AND ENGLISH:For Listening Practice(Gogaku Shinchosha)

<テスト結果>

540名の平均得点

4月のCELT listening Comprehension Testの平均：発表時に報告

12月のCELT listening Comprehension Testの平均：発表時に方向

13クラスの担当教員の専門と各得点の伸びを発表時に報告する予定である。

当日、4月ー12月までに、どのくらいlisteningの実力が伸びたかを、各クラス(合計13クラス)ごとに、詳細に報告する予定である。35%伸びたクラスもあれば、5%しか伸びなかったクラスもある。同一の教材を使用しながら、13クラスともかなり伸びが違うのは、何故なのかを、様々な観点(学習意欲、教授法、教員の専門、他)から報告したい。また、共通教材の利点や不利な点、統一テストの利点や不利な点などに関しても討論する予定である。

9月16日(土) 事例研究第3室(723)

<リスニング・クラス2年目(1995年度)のカリキュラムの特徴>

テキストは自由、統一試験を実施して、CELT Listening Comprehension Test 70%以上の学生のために、今年度からAdvanced Listening Comprehension Classを設けた。

<Advanced Listening Class の特徴>

アドバンスト・リスニング・コンプリヘンション

目標：可能なかぎりナチュラル・スピードに近い、散文や会話体の現代英語を聞いて理解できるように指導する。

Listening Proficiency Test 80%-90%目標

TOEFL 550点以上目標

内容：最初から高度な教材(ABC, BBC, CNN news等)を聞き取る訓練をする。米語・英語の映画、ニュース、講義、大統領のスピーチ、その他を教材にする。

同時通訳訓練方式を採用しながら、高度なlistening技術を学ぶ。

前期：ニュース、映画、大学の講義などを聞きながら、note-takingの練習をする。

後期：ニュース、映画、大学の講義などを聞きながら、逐次・同時通訳の訓練をする

テキスト：Focus on Innovators and Innovations 他。

試験：4月の最初の授業時と12月最後の授業時に、Listening の検定試験を実施する。

検定試験に合格して、単位が認定される。

コースの登録条件：CELT Listening Test 70%以上、TOEFL 500点以上、英検の準一級。

3. 英語検定資格試験準備講座A(TOEFL 準備コース)

目標：TOEFLで520点以上を取得する。(青山の海外研修資格の最低の英語力)

海外研修に耐えられるだけの、英語力を養う。

内容：BEAT THE TOEFL, Cambridge TOEFL教科書を使用しながら、TOEFL問題を分析し特徴を学んでいく。授業は、特にlisteningに力点を置きながら行っていく。文法・読解語彙に関しては、授業で勉強の仕方を指導し、課題として多くの問題を解いていく予定である。後期には、大学の授業に最も重要な、note-taking skillも指導する。又アメリカのESLで使用されている教科書を使用しながら、大学の講義を英語でどのように聞いていくかを指導する。

試験：毎回、過去の実際の問題を解いていく。4月に実際のTOEFL模擬試験を実施、特に12月後半には、ITPの実際のTOEFL試験を実施する。(費用：約2700円程度)

成績：TOEFLの試験と出席で決定する。

発表時に去年1年間の成果を報告する予定である。

4月のTOEFL 平均点：得点は、発表時に報告

12月のTOEFL 平均点：得点は、発表時に方向

9月16日(土) 事例研究第3室(723)

4. 英語圏の言葉と文化(3年次配置)

目標：これまでに養った英語力を駆使して、英語圏の言葉・社会・文化の理解を深めるように指導する。

内容：担当者ごとに特色あるクラスを開講し、英語圏の政治・経済・文化・思想などを教授する。

事例研究発表内容：

1. 旧来のカリキュラムと新カリキュラムの比較 5分
 - a. 新カリキュラムの特徴(1994年度から実施)
 - b. 実際の授業紹介(ビデオ上映)
2. リスニング統一試験の分析結果 20分
 - a. 担当者の専攻比較と統一試験の伸びの結果
 - b. 統一試験の利点・不利な点
 - c. 選抜Advanced listeningクラスの現状報告
3. 英語資格試験講座A 5分
 - a. カリキュラム内容
 - b. 1994年度の4月－12月のTOEFLの得点分析
4. 英語圏の文化と言葉(3年次に配置、1996年度から実施) 2分
 - a. アンケート調査結果。
 - b. これからの選択科目について報告。